

『その人の生活や多職種とのつながりを大切に療養生活をささえる』

りりー薬局 いけだ ふみこ
池田 富美子 氏 (彦根市 小泉町)

「11月『滋賀の医療福祉を守り育てる月間』FMひこねとのコラボ企画第三弾！！」

みなさん、ご存知でしょうか。11月は、『滋賀の医療福祉を守り育てる月間』です。

滋賀県では、医療福祉について、県民が学び、理解を深め、主体的な取り組みを展開していくことの重要性から、地域において県民自ら、健康や地域の医療福祉について考えるきっかけづくりとなるように、11月を『滋賀の医療福祉を守り育てる月間』と定め、県民向けの広報・啓発活動を各地で集中的に実施しています。

そこで、今回は、FMひこね様とコラボしていただいて、下記の日程でラジオ放送もされていますので、こちらでもぜひ先生の対談の様子をお楽しみください。

放送日 【FMひこねラジオ放送(78.2MHz)】

- ◆橋本医院 橋本進一氏 平成29年11月 2日(木)・3日(金)
- ◆つつみ歯科医院 堤 正彦氏 平成29年11月 9日(木)・10日(金)
- ◆りりー薬局 池田富美子氏 平成29年11月 16日(木)・17日(金)
- ◆ダイジェスト版(予定) 平成29年11月 23日(木)・24日(金)

<放送時間>10分程度
①6:40~(金曜日のみ6:50~)
②7:50~
③9:40~
④11:50~
⑤16:40~
⑥19:50~



今回は、南彦根駅前(東口)でりりー薬局を開局されている薬剤師の池田富美子先生にお話をうかがいました。【取材日：平成29年10月6日】

*インタビューは、彦根医療福祉推進センター所長(彦根市立病院在宅診療科主任部長)の切手俊弘医師です。(本文中青文字「 」内の部分)

薬剤師を志し、リリー薬局開局までのあゆみ

～ 夫婦で力を合わせて おかげさまで 10 周年～

「先生は薬剤師としてのキャリアを積まれてきていらっしゃると思いますが、薬剤師を志したきっかけはどのようなことでしたか。また、リリー薬局を開局されたきっかけを教えてくださいませんか」

「私が薬剤師を志したのは、幼い頃に一緒に暮らしていた祖父母がたくさん薬を飲んでいまして、『何の薬を飲んでいるのだろう』と疑問に思ったことがきっかけとなりました。

薬剤師になって、薬局を開局する以前は、夫も私も薬品メーカーで営業の仕事をしていました。営業という仕事でしたので、薬剤師の資格は持っていましたが、調剤などの薬剤師としての仕事をしていただけではありませんでした。

その後、将来の事を考え、薬剤師として病院に勤務

し、慣れない業務に日々悪戦苦闘しておりましたところ、ご縁があって、新規開局のお話をいただき、夫と共にリリー薬局を立ち上げることになりました。夫の親族は、母も兄も薬剤師ですし、父は薬局をしていましたので、薬局を始めるにあたっては夫の親族の支援がありました。

そして、リリー薬局はおかげ様で、この10月にちょうど10年を迎えることが出来ました。夫と二人ではじめた小さな町の調剤薬局ですが、10年経ったのかと、少し感慨深いところもあります。」



夫の弥三郎さんと一緒に

リリー薬局 薬剤師の1日

「薬剤師の先生が一日どんな仕事をされているのか教えてくださいませんか。」

「リリー薬局は、早朝7:30から開局しています。南彦根駅の駅前ということもあって、通勤、通学、通園の前にお薬をお渡しすることが出来ます。そのため、我が家の1日は朝7時にはお仕事モード全開です。

お昼までは、病院や診療所等の午前診がありますので、薬局では外来業務が主になります。午後は、多くの診療所の診察は一旦受付を終了され、17時頃に午後診を開始されますが、薬局は昼間もずっと開局したままです。その間の時間を使って、薬歴を記載したり、医薬品管理業務を行ったりと、引き続き薬局内での業務を行っています。診療所の午後の診察が始まる頃から、再び外来業務が忙しくなります。

また、この外来業務が少なくなっている時間帯を利用して、外へ出かけています。

学校薬剤師という業務や、在宅や施設を訪問させていただいて、患者様のお薬の管理や説明、ご相談の対応もしています。」

「薬剤師の先生は薬の調剤をして渡すだけと思っている方が多いと思うのですが、いろんな仕事があって様々なところで活動されているのがよく分かりました。」



薬剤師の在宅訪問について

「訪問のお仕事をされていますが、薬剤師の方が訪問されてどのような活動をされているのかを教えてください。」

「薬剤師は、介護保険や健康保険を利用して、週に1回、ご自宅やご入居施設へ訪問して、お薬の指導や管理をすることが出来ます。」

薬剤師が訪問する、と聞くと、医療用麻薬を使っているとか、24時間点滴をしている時など、がん等で闘病されている方や重症の方をイメージするかもしれませんが、認知症やお一人暮らしの方、お薬の管理が苦手という方、どなたでも気軽にご利用いただける有料のサービスとなっています。」



多職種協働で服薬支援を ～その人の生活に寄り添い 服薬支援を皆で考える～

「私は現在、ご自宅や施設入居者様を訪問して、お薬の管理をさせていただいています。ただし、薬剤師の訪問は多くても週に1回ですので、普段の服薬支援に関しては、ご家族や訪問看護師さん、ヘルパーさん、ケアマネジャーさんとの協働が欠かせないものとなっています。」

先日、あるケアマネジャーさんから、ご相談をいただきました。お一人暮らしの血液疾患の方が服薬できていないということで、医師（処方医）へ直接電話で意見交換し、お互いの想いを確認して、飲みやすい形に変更していただくことができたというようなこともありました。」

「薬の管理というのは、飲み方を考えたりするだけで患者さんの生活が変わってくるということがありますね。」

「そうですね。他にも、お一人暮らしの認知症の方で、いつも粉薬が残ってしまう方がおられて、なぜなのかわからずヘルパーさんに尋ねましたら、この方は粉薬が苦手ということがわかって、錠剤に変更したという経験もあります。」

私達薬剤師は、患者さんと接する時間が多い訳ではないので、普段の様子はわかりません。そして、いくら素晴らしい効果のあるお薬でも、服用しなければ効果はありませんし、無駄になってしまいます。また、間違った服薬は重大な副作用に繋がり、非常に危険です。

そこで私たちは、患者さんをはじめ、ご家族様、それから医師、ケアマネジャー、訪問看護師、ヘルパー、デイサービスのスタッフの方など、その方にかかわるすべての方々、職種と連携をとる中で服薬できるようにしていくことが、よりよい支援だと考えています。」

残薬について

「薬はたくさん飲んでいられる方も多いのですが、最近よく医療費に関連して、飲まずに残ってしまう薬『残薬』ということが問題になっています。残薬に対して、薬剤師の先生方がどのように関わっておられるのか教えてください。」

「最近の話題によく上がりますが、飲まずに残ってしまった、もしくは副作用が怖くて飲めなかったというお薬がたくさんあると、飲み間違いにつながりますし、お金の点から、残薬は国としても問題視しているところです。薬剤師が薬の専門職として取り組んでいることは様々あるのですが、一つは、滋賀県薬剤師会として、ブルーの残薬回収袋というのを薬局で配布しています。このブルーの残薬回収袋に残ってしまったお薬を入れて薬局に持ち込んでいただくと、期限や状態、現在の処方内容を判断して、ご本人のお薬として再び活用することも可能です。もちろん家にある他の袋でもかまいません。薬をもらった薬局に持ち込んでいただくと、アドバイスもさせていただくことが可能です。」



池田先生からのメッセージ

「最後に、先生の考える在宅医療や住民の皆さんに薬剤師としてのメッセージをお願いできますか。」

「お薬はやはりきちんと飲んでこそ効果があります。なぜ飲まなければいけないのか、なぜ飲んでいるのか、飲んでいることでどうなるのか、ということをごきちんとご理解していただくことでより良い効果が得られると考えていますので、そこを薬剤師として支援させていただければと思います。何か薬のことで困ったことがありましたら、町の薬局の薬剤師にご相談ください。」



オフレコ

池田先生のモットー

『ご自宅まで訪問させていただく際は、お薬の管理や服薬が困難な場合が多いので、できるだけわかりやすく、朝・昼・夕などの服用時点でお薬をまとめて分包したり、残薬（飲み残し）がある場合にはなぜ飲めないのかをきちんと考慮して、粉が良いか、錠剤が大きすぎるか、服用回数が多いかなど、いろいろ考えます。』

そして、お薬を飲まれるご本人、管理されるご家族や他のサービススタッフ、皆が扱いやすく、簡単確実に服薬していただけるような支援を心がけています。』



『認知症サポーターです。』

オレンジリングを
身につけています。』

*注釈「オレンジリング」とは認知症サポーター（「認知症サポーター養成講座」を受けた人。認知症を支援する人）の「目印」、ブレスレット

時間に余裕ができたらしたいこと

『料理がしたいです。料理はあまり好きではないのですが、ゆっくり時間をかけて料理をしたいですね。普段簡単なものしか作れないので、ちゃんと料理の本を見て、お買い物をして、ゆっくり作ってみたいと思っています。』



患者さん、医療関係者、介護関係者とのつながりを大切にしながら、日々薬剤師として在宅療養患者さんのために奮闘して下さっている池田先生。先生の明るさとパワーにいつも元気づけられます。身近な地域でつながり、支えあう、これからの地域づくり、医療や介護の充実に向けて、今後とも薬剤師の皆様のお力添えをよろしくお祈りします。(A)